

亀岡市高齢者等実態調査の結果について

調査の概要

1 調査目的

本調査は、第8期亀岡市介護保険事業計画を包含する「亀岡市いきいき長寿プラン」の策定を行うにあたり、高齢者等の生活実態をはじめ、介護保険サービスや高齢者保健福祉サービスの利用状況、これらに対する今後のニーズ、健康づくりや生きがいづくりに関する意識などを的確に把握し、「亀岡市いきいき長寿プラン」に反映させる基礎資料として活用するために実施しました。

2 実施要領

(1) 調査対象

調査区分	調査対象の設定
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	令和元年11月1日現在で65歳以上の高齢者（要介護認定者（要介護1～5）除く）の中から、層化抽出（市内4圏域）
在宅介護実態調査	令和元年度に要介護認定の更新や区分変更をされる65歳以上の高齢者の中から、令和2年2月末までの認定審査対象となる者を順に月日を遡って抽出 ※調査票には、A票とB票が含まれ、A票は本人（調査対象者）が回答、B票は主な介護者が回答

(2) 調査期間

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査：令和元年12月2日（月）～12月16日（月）

在宅介護実態調査：令和元年12月12日（木）～12月26日（月）

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収

（※在宅介護実態調査では、認定調査員による対面聞き取り調査を一部実施）

(4) 配布・回収状況

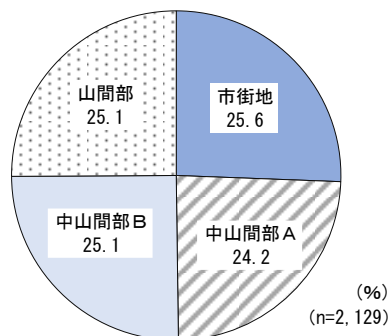
	配布数	有効回収数	有効回答率	
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3,352	2,129	63.5%	
在宅介護実態調査	（郵送調査）	550	338	61.5%
	（聞き取り調査）	—	61	—

3 報告書の見方

- ・図表中の「n」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- ・図表中の「MA%」は回答選択肢の中からあてはまるものすべてを選択する質問、「3LA%」は3つ以内選択する質問を表しています。

調査結果『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』

本調査では、市内を4地域に区分して集計しており、各地域の回収結果は以下のとおりとなっている。



調査地域	該当する地区・町
①市街地	亀岡地区、大井町、千代川町、篠町、東つつじヶ丘、西つつじヶ丘、南つつじヶ丘
②中山間部A	曾我部町、吉川町、葎田野町
③中山間部B	馬路町、旭町、千歳町、河原林町、保津町
④山間部	東別院町、西別院町、本梅町、畑野町、宮前町、東本梅町

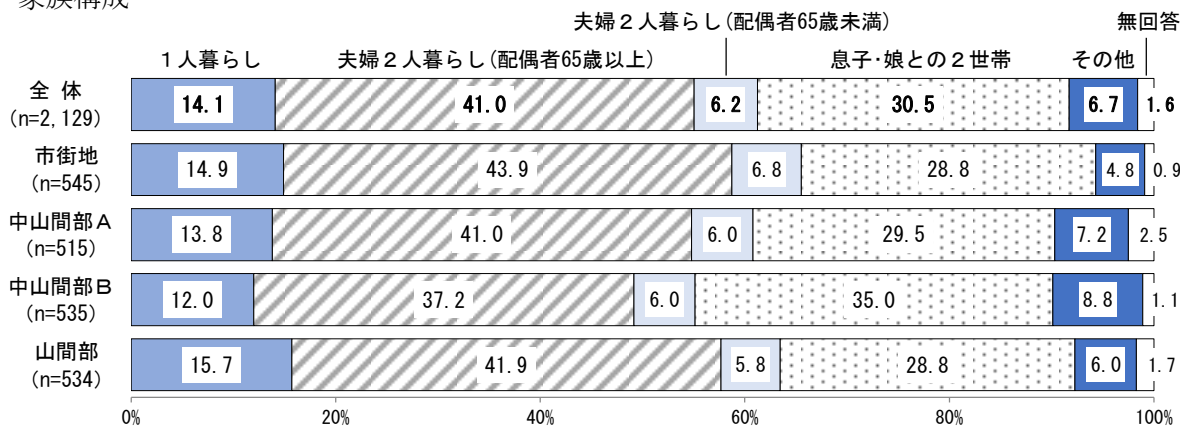
(上段：実数、下段：%)

	65～69歳		70～74歳		75～79歳		80～84歳		85～89歳		90歳以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全市 (n=2,129)	320	304	306	325	180	216	140	143	56	79	18	42
	15.0	14.3	14.4	15.3	8.5	10.1	6.6	6.7	2.6	3.7	0.8	2.0
市街地 (n=545)	89	72	81	86	46	67	33	25	10	24	4	8
	16.3	13.2	14.9	15.8	8.4	12.3	6.1	4.6	1.8	4.4	0.7	1.5
中山間部A (n=515)	71	64	60	81	59	62	37	34	18	17	3	9
	13.8	12.4	11.7	15.7	11.5	12.0	7.2	6.6	3.5	3.3	0.6	1.7
中山間部B (n=535)	77	91	84	79	34	38	40	39	11	20	7	15
	14.4	17.0	15.7	14.8	6.4	7.1	7.5	7.3	2.1	3.7	1.3	2.8
山間部 (n=534)	83	77	81	79	41	49	30	45	17	18	4	10
	15.5	14.4	15.2	14.8	7.7	9.2	5.6	8.4	3.2	3.4	0.7	1.9

(1) 家族構成

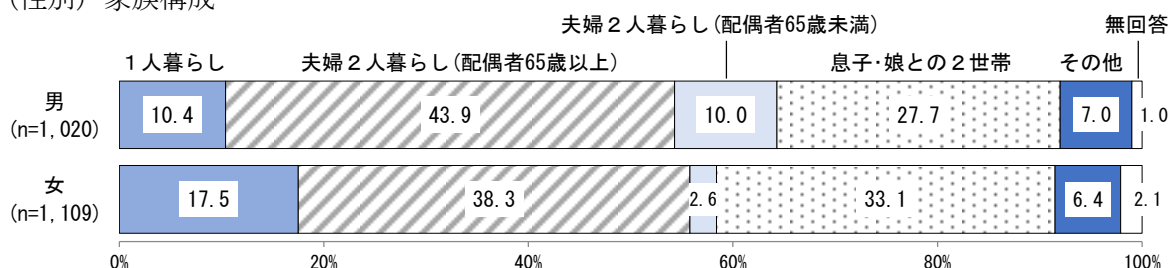
1人暮らし高齢者はいずれの圏域においても1割台みられ、『山間部』で15.7%と最も高い。

図表. 家族構成



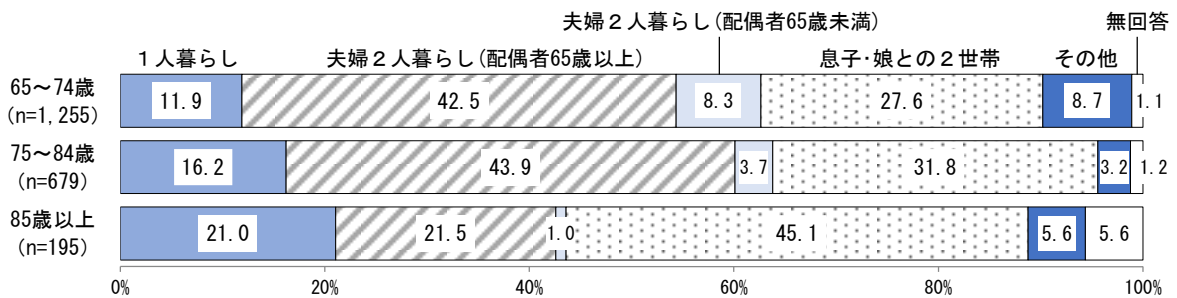
1人暮らし高齢者は、男性で10.4%に対し、女性では17.5%と高い。

図表. (性別) 家族構成



85歳以上の高齢者では、「息子・娘との2世帯」が4割台(45.1%)を占めているものの、「1人暮らし」が2割台(21.0%)みられる。

図表. (年齢別) 家族構成

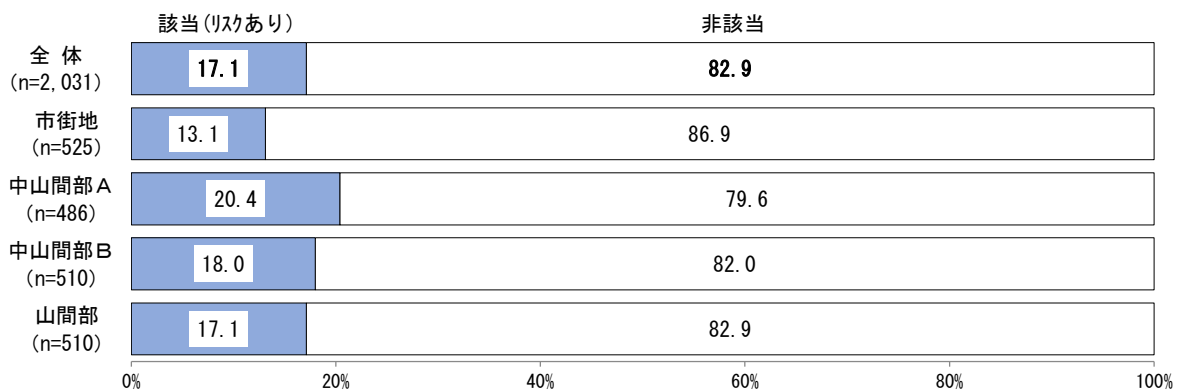


(2) 生活機能評価 ※国の手引きをもとに該当設問を抽出し判定(無回答により判定困難な場合はn数から除外)

<①運動器の機能低下>

運動器の機能低下に該当(リスクあり)の高齢者は、『中山間部A』で20.4%と最も高く、『市街地』で13.1%と最も低くなっている。

図表. 運動器の機能低下



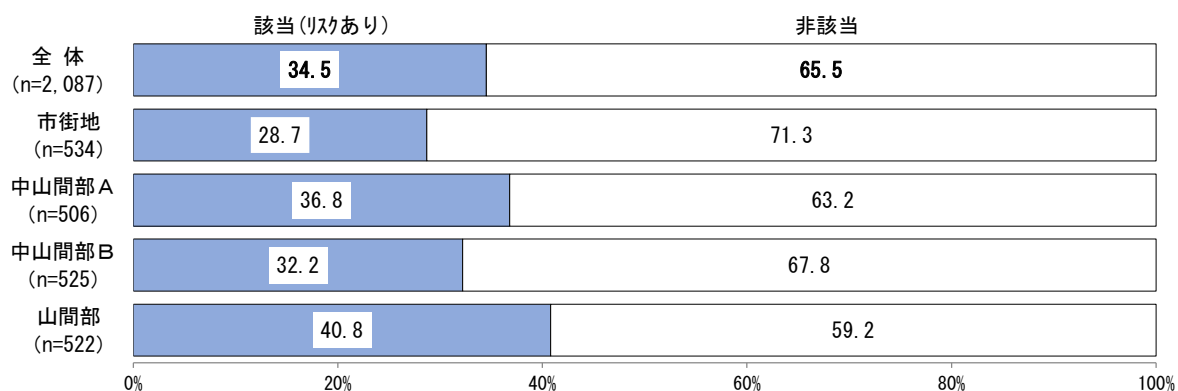
【判定方法】以下の5項目のうち、3項目以上に該当する人をリスクありと判定

問番号	設問	該当する選択肢
問2	(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
	(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
	(3) 15分位続けて歩いていますか	3. できない
	(5) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
	(6) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

<②転倒リスク>

転倒リスクに該当(リスクあり)の高齢者は、『山間部』で 40.8%と最も高く、次いで『中山間部A』で 36.8%となっている。

図表. 転倒リスク



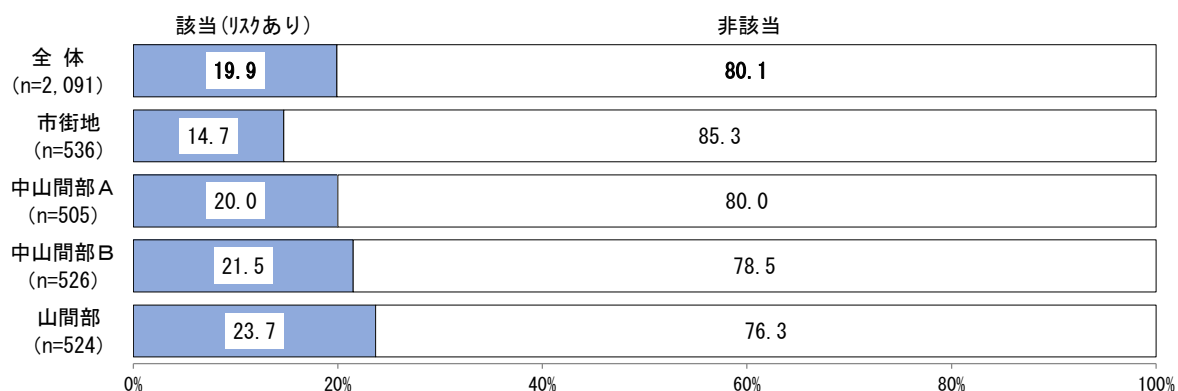
【判定方法】以下の項目に該当する人をリスクありと判定

問番号	設問	該当する選択肢
問2 (5)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

<③閉じこもり傾向>

閉じこもり傾向に該当(リスクあり)の高齢者は、『市街地』以外の圏域ではいずれも2割台となっており、『山間部』で 23.7%と最も高い。

図表. 閉じこもり傾向



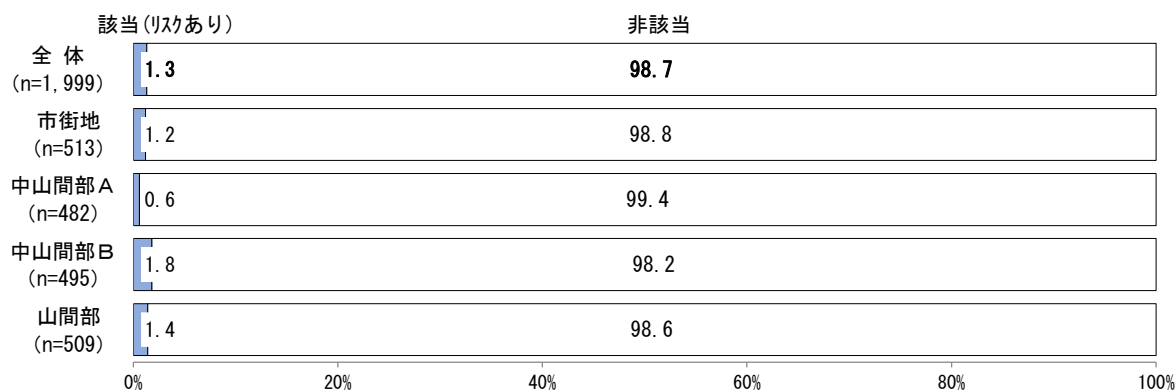
【判定方法】以下の項目に該当する人をリスクありと判定

問番号	設問	該当する選択肢
問2 (7)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

<④低栄養の傾向>

低栄養の傾向に該当(リスクあり)の高齢者は、いずれの圏域も2%未満となっている。

図表. 低栄養の傾向



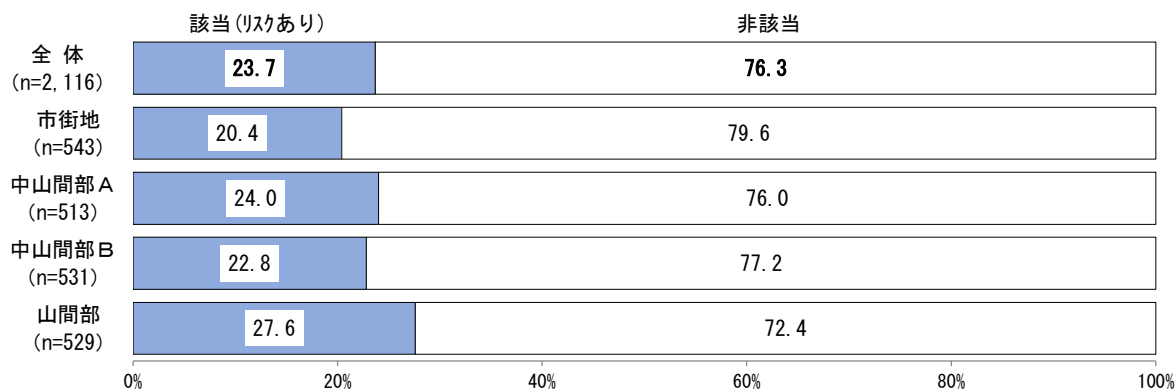
【判定方法】以下の2項目ともに該当する人をリスクありと判定

問番号	設問	該当する選択肢等
問3	(1) 身長・体重を記入ください	BMI 18.5未満
	(10) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

<⑤口腔機能の低下>

口腔機能の低下に該当(リスクあり)の高齢者は、いずれの圏域も2割台となっており、『山間部』で27.6%と最も高い。

図表. 口腔機能の低下



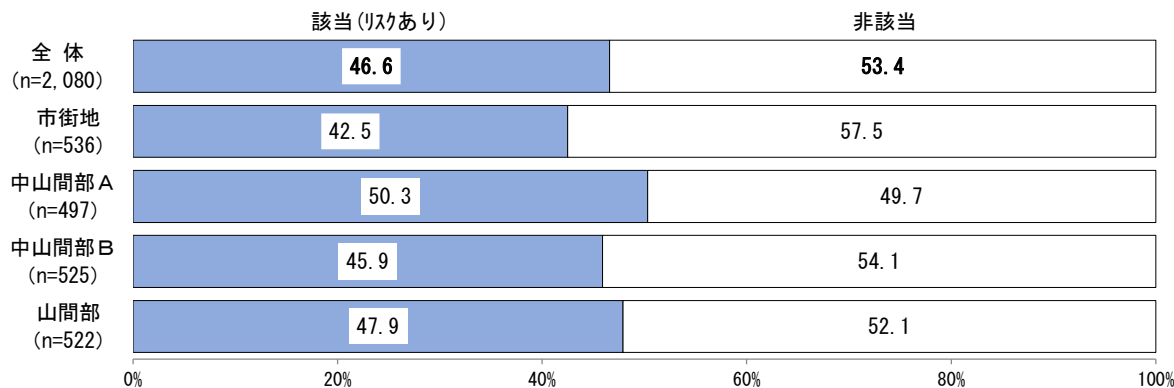
【判定方法】以下の3項目のうち、2項目以上に該当する人をリスクありと判定

問番号	設問	該当する選択肢
問3	(5) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
	(6) お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
	(7) 口の渇きが気になりますか	1. はい

<⑥認知機能の低下>

認知機能の低下に該当(リスクあり)の高齢者は、『中山間部A』で 50.3%と最も高く、次いで『山間部』で 47.9%となっている。

図表. 認知機能の低下



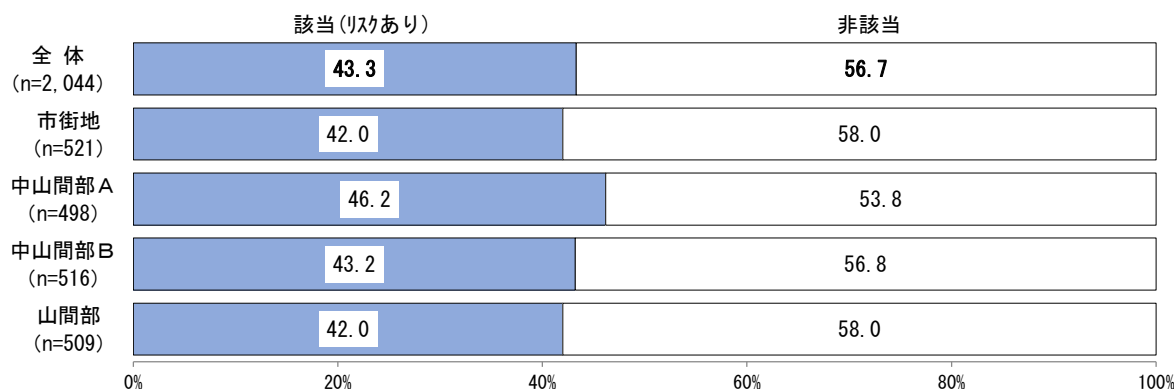
【判定方法】以下の項目に該当する人をリスクありと判定

問番号	設問	該当する選択肢
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい

<⑦うつ傾向>

うつ傾向に該当(リスクあり)の高齢者は、いずれの圏域においても4割台となっており、『中山間部A』で 46.2%と最も高い。

図表. うつ傾向



【判定方法】以下の2項目のうち、いずれかに該当する人をリスクありと判定

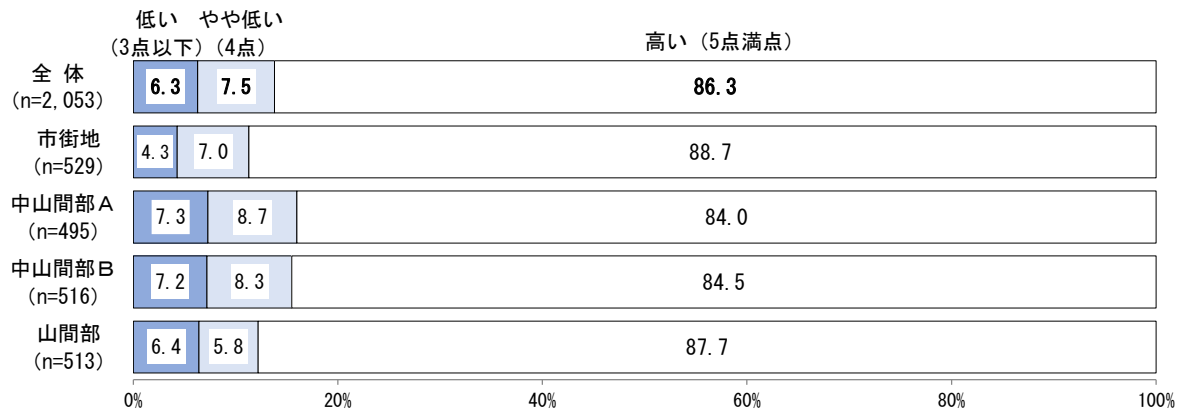
問番号	設問	該当する選択肢等
問7	(4) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
	(5) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

(3) 日常生活評価 ※老研式活動能力指標に準じた設問を抽出し評価（無回答により判定困難な場合はn数から除外）

<手段的自立度（IADL）>

手段的自立度(IADL)の低下のリスクあり(「低い」または「やや低い」と評価)の高齢者は、いずれの圏域も1割台となっており、『中山間部A』で16.0%、『中山間部B』で15.5%と高い。

図表. 手段的自立度（IADL）



【評価方法】以下の5項目について、それぞれ該当する選択肢を1点として、計5点満点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価

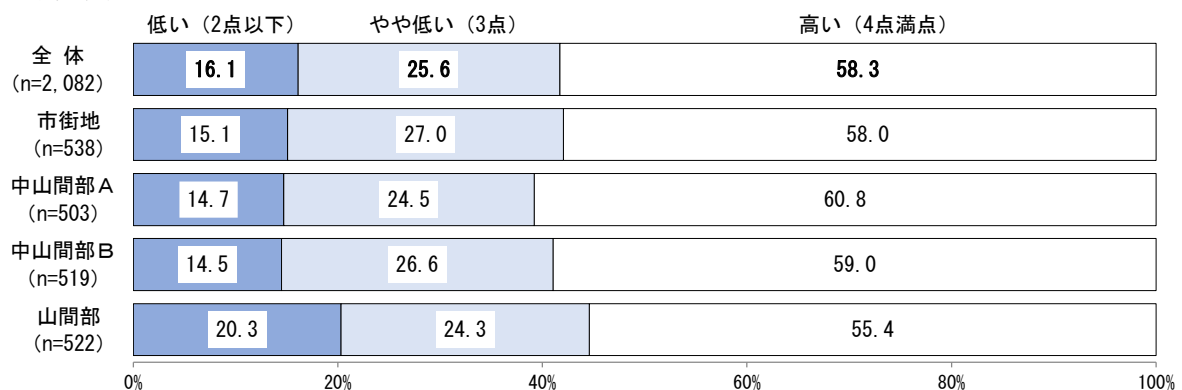
問番号	設問	該当する選択肢
問4	(5) バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している [1点] 2. できるけどしていない [1点]
	(6) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している [1点] 2. できるけどしていない [1点]
	(7) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している [1点] 2. できるけどしていない [1点]
	(8) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している [1点] 2. できるけどしていない [1点]
	(9) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している [1点] 2. できるけどしていない [1点]

(4) 社会参加評価 ※老研式活動能力指標に準じた設問を抽出し評価（無回答により判定困難な場合はn数から除外）

<知的能動性>

知的能動性の低下のリスクありの高齢者は、『山間部』で44.6%と最も高く、「低い」と評価の割合が2割を超えている。

図表. 知的能動性



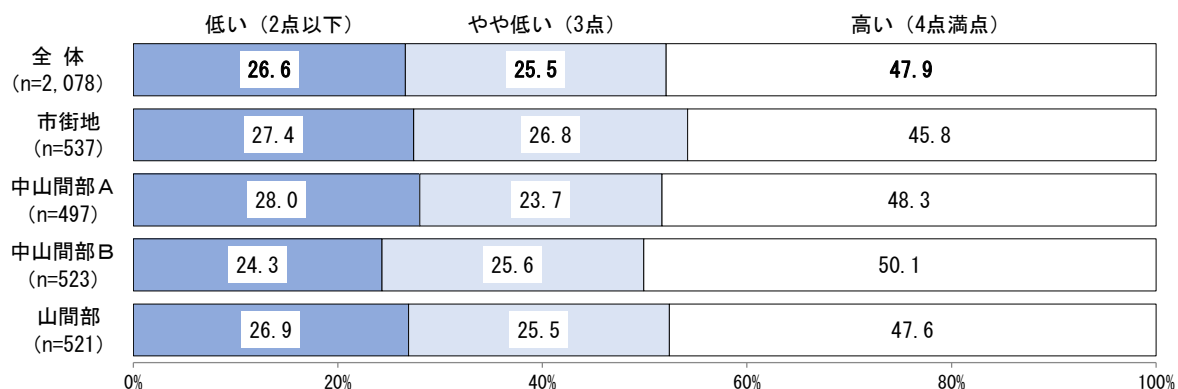
【評価方法】以下の4項目について、それぞれ該当する選択肢を1点として、計4点満点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(10) 年金などの書類が書けますか	1. はい [1点]
	(11) 新聞を読んでいますか	1. はい [1点]
	(12) 本や雑誌を読んでいますか	1. はい [1点]
	(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい [1点]

<社会的役割>

社会的役割の低下のリスクありの高齢者は、いずれの圏域においても半数前後を占めており、『市街地』で54.2%と最も高い。

図表. 社会的役割



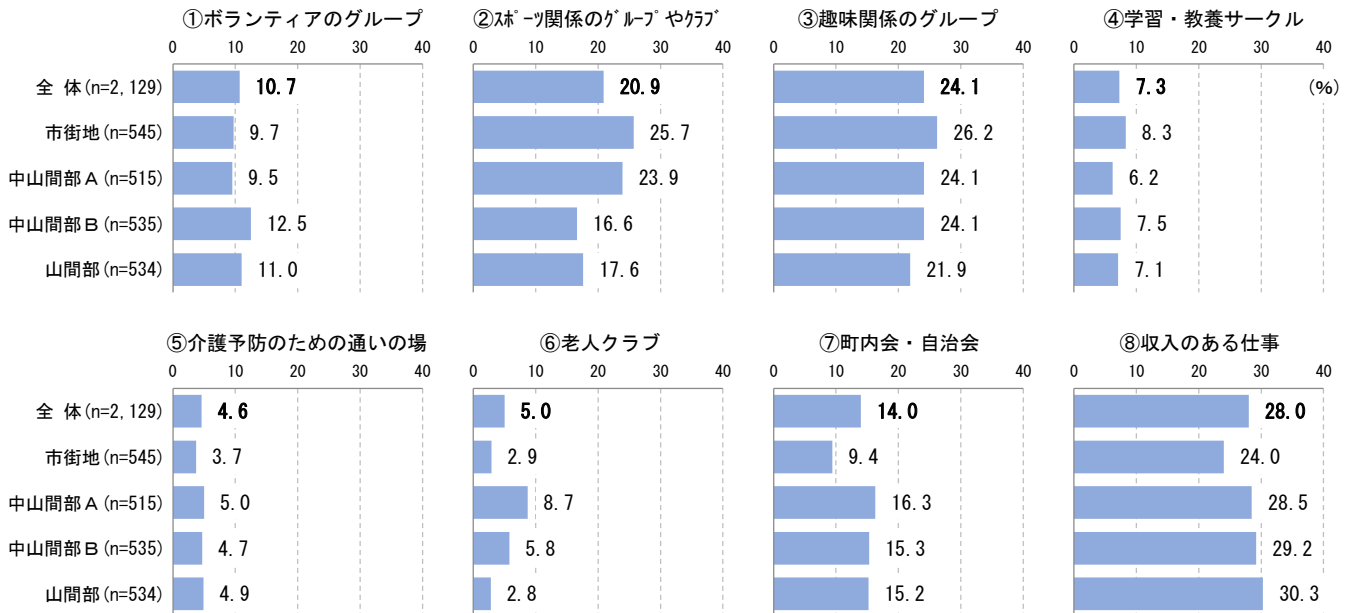
【評価方法】以下の4項目について、それぞれ該当する選択肢を1点として、計4点満点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(16) 友人の家を訪ねていますか	1. はい [1点]
	(17) 家族や友人の相談にのっていますか	1. はい [1点]
	(18) 病人を見舞うことができますか	1. はい [1点]
	(19) 若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい [1点]

(5) 地域の会・グループ等への参加状況

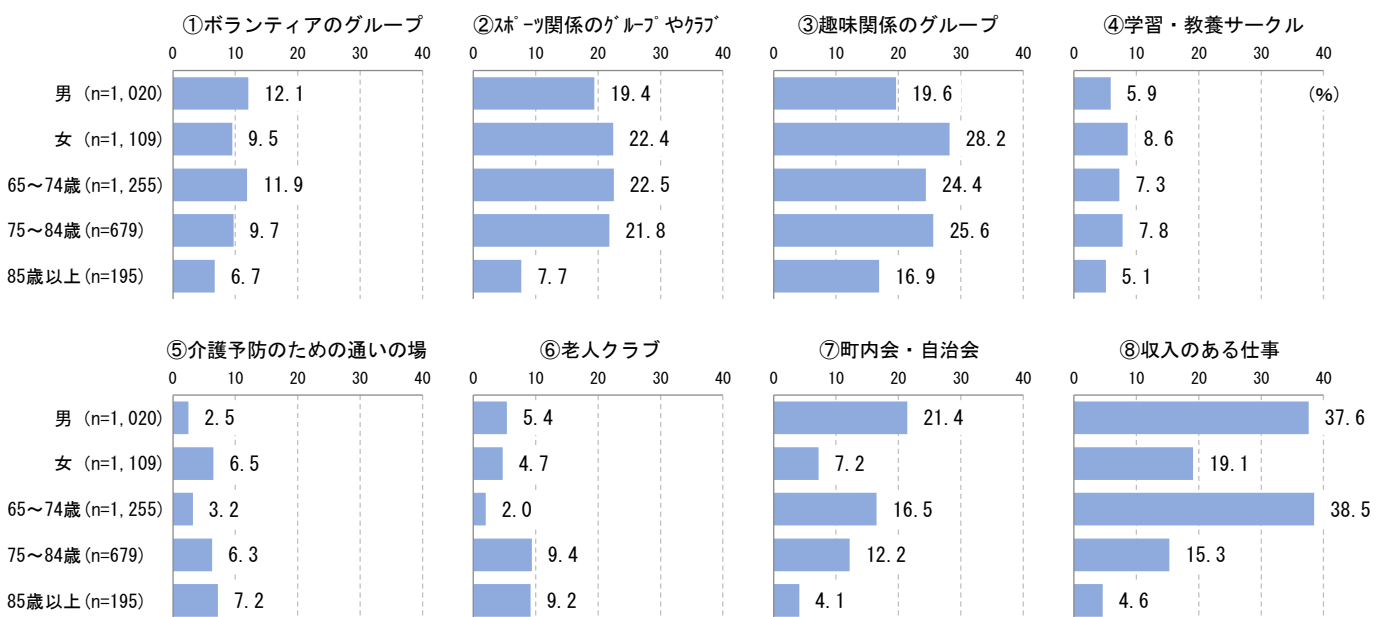
月に1回以上参加している割合について、市街地では、『③趣味関係のグループ』、『②スポーツ関係のグループやクラブ』は地域の中で最も高いものの、『⑦町内会・自治会』では最も低い。

図表. 地域の会・グループ等への参加頻度 <※月に1回以上参加している割合>



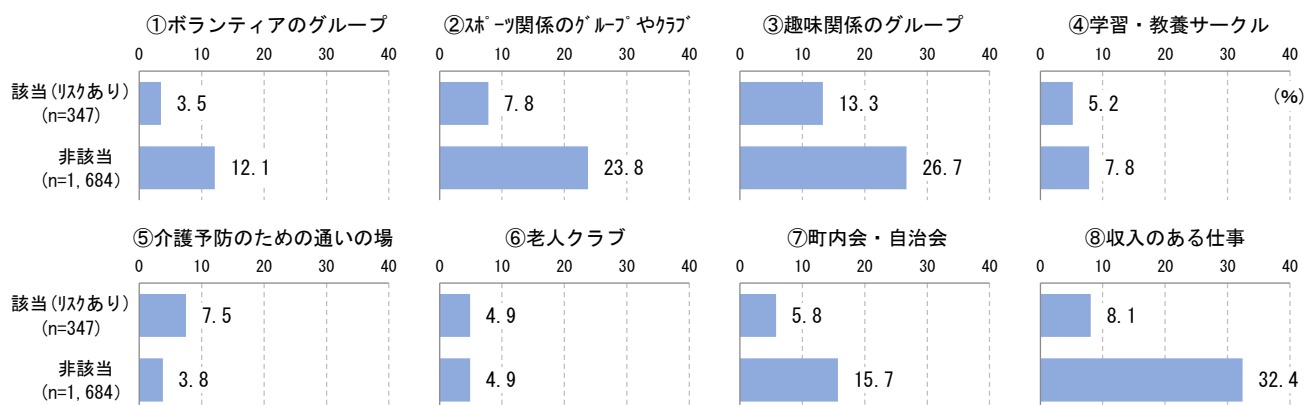
月1回以上参加している割合について、男性では「⑧収入のある仕事」が 37.6%、女性では「③趣味関係のグループ」が 28.2%と、それぞれ最も高くなっている。
また、年齢別にみると、65～74歳では「③趣味関係のグループ」が 38.5%と最も高いのに対し、75歳以上では「③趣味関係のグループ」が最も高く、75～84歳で 25.6%、85歳以上で 16.9%となっている。

図表. (性別) (年齢別) 地域の会・グループ等への参加頻度 <※月に1回以上参加している割合>



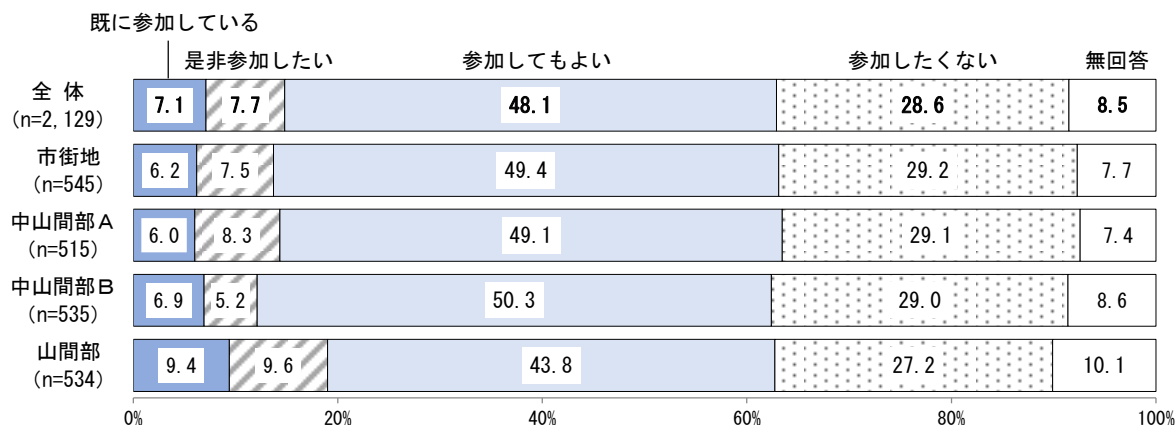
月1回以上参加している割合について、運動器の機能低下のリスク該当者では、多くの項目で非該当者に比べて10ポイント前後低くなっており、『③趣味関係のグループ』で13.3%などとなっている。

図表. (生活機能評価『運動器の機能低下』別) 地域の会・グループ等への参加頻度 《※月に1回以上参加している割合》



趣味等のグループ活動への参加意向としては、いずれの圏域も「是非参加したい」または「既に参加している」が1割台となっており、『山間部』で19.0%と最も高い。

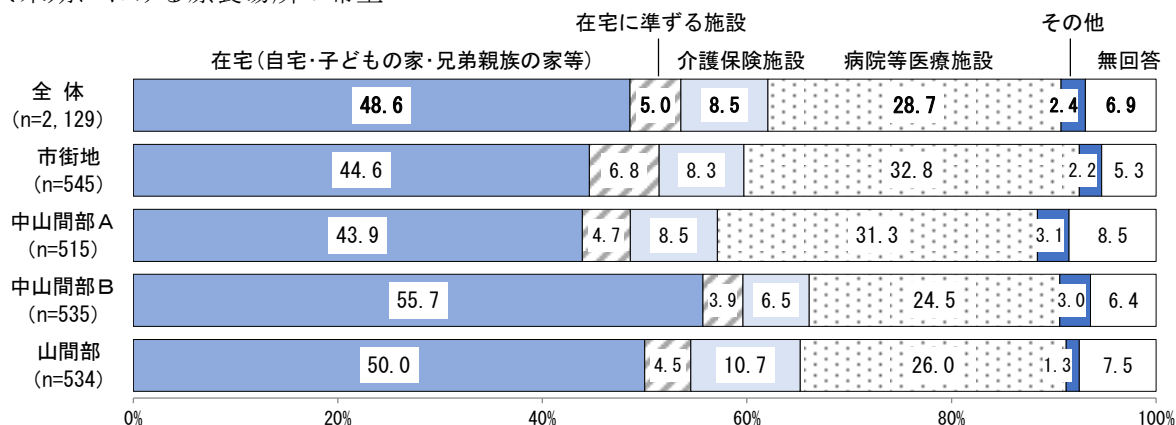
図表. 健康づくりの活動や趣味等のグループ活動への参加意向



(6) 終末期における療養場所の希望

最期を迎えたい場所としては、いずれの圏域も「在宅」が4~5割台と最も高く、特に『中山間部B』で55.7%と高い。また、これに続くのが、「病院等医療施設」で2~3割台となっている。

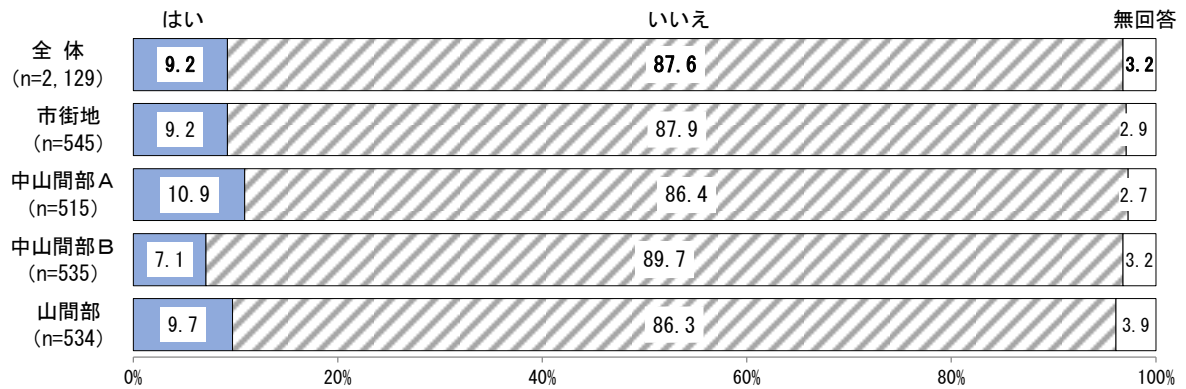
図表. 終末期における療養場所の希望



(7) 認知症にかかる相談窓口の把握状況

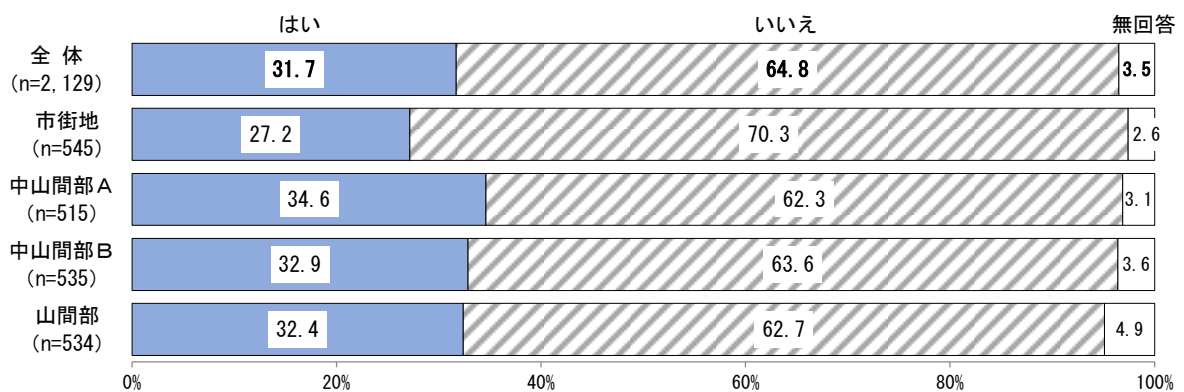
自身または家族に認知症の症状があるという割合(「はい」)は、いずれの圏域も1割前後となっており、中山間部Aで10.9%と最も高い。

図表. 自身や家族の認知症状の有無



認知症に関する相談窓口を知っている割合(「はい」)は、中山間部・山間部では3割台みられるのに対し、市街地では27.2%と低い。

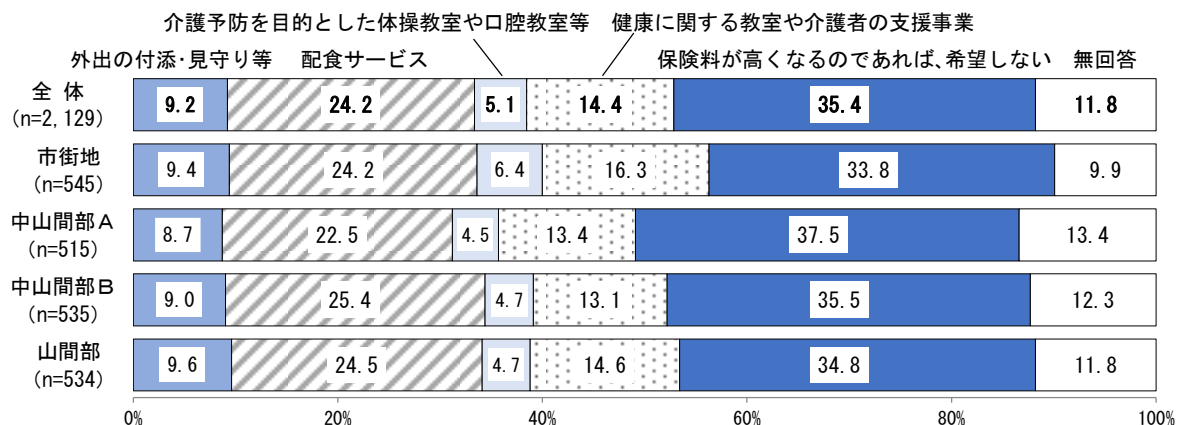
図表. 認知症に関する相談窓口の認知度



(8) 保険料を財源とした市独自サービスの希望

保険料を財源とした市独自のサービスを希望する割合では、いずれの圏域も「配食サービス」が2割台と高くなっている。一方、「保険料が高くなるのであれば、希望しない」が3割台みられる。

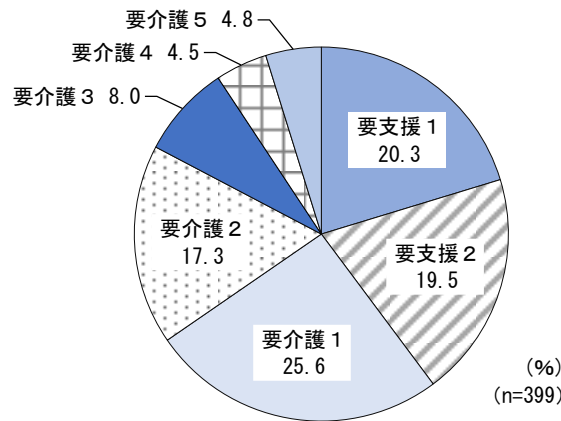
図表. 保険料を財源とした市独自サービスの希望



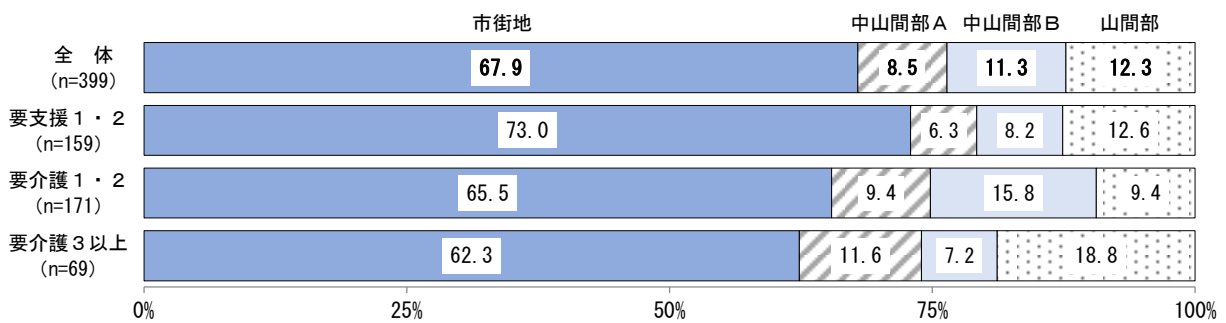
調査結果（在宅介護実態調査）

（１）調査対象者の属性

図表．要介護度



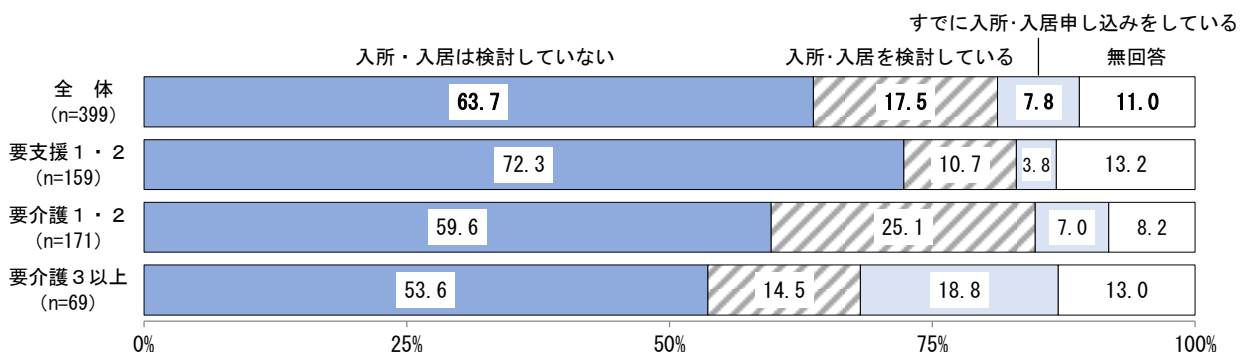
図表．（要介護度別）調査対象地域



（２）施設等への入所・入居検討状況 A票：本人が記入

施設等への入所・入居について、「入所・入居を検討している」が要介護1・2の人で 25.1%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が要介護3以上の人で 18.8%と、それぞれ最も高い。

図表．（要介護度別）施設等への入所・入居の検討状況

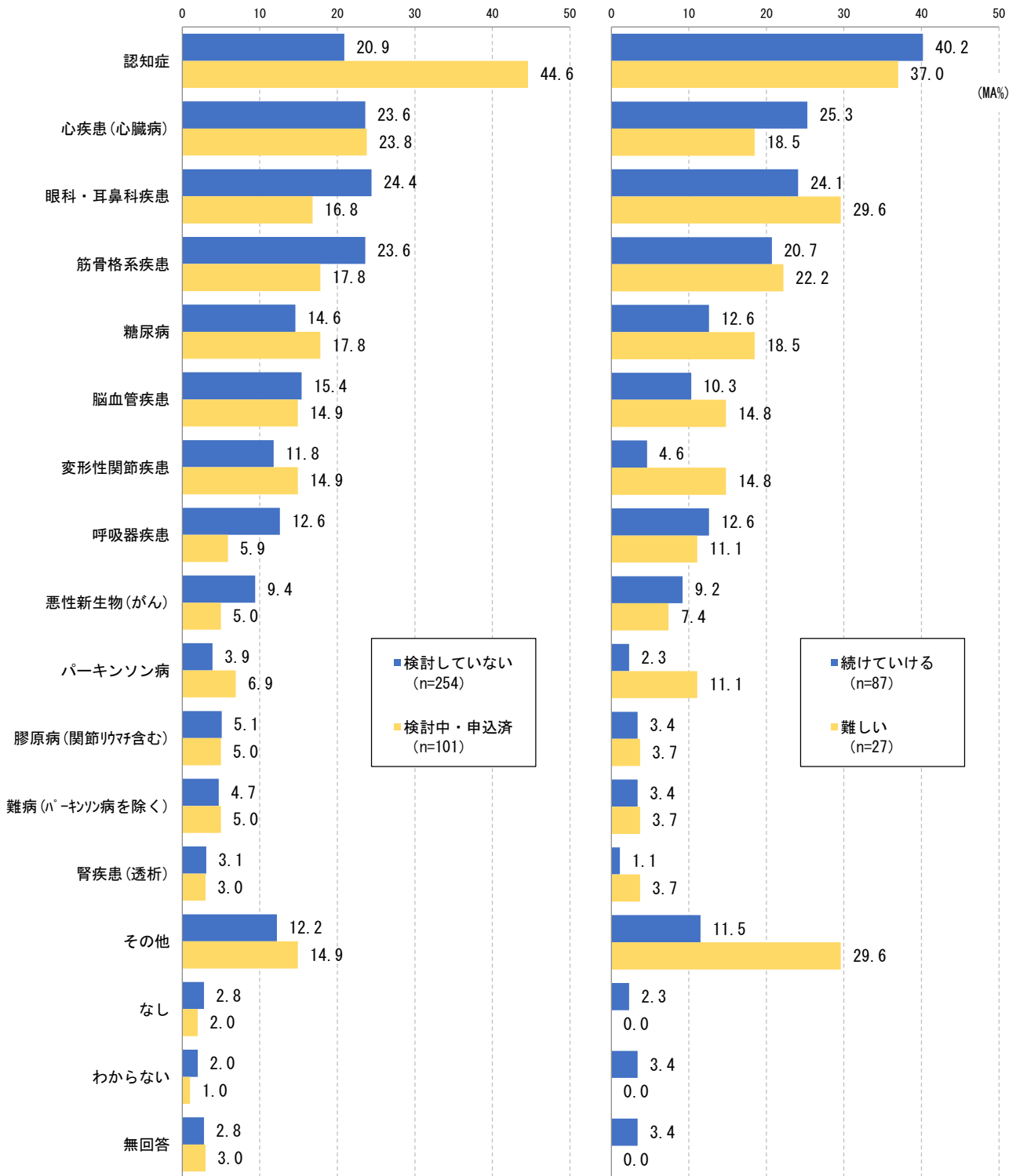


（3）現在抱えている傷病 A票

施設等への入所・入居を検討中もしくは申し込み済の高齢者が抱える傷病としては、「認知症」の割合が高い。
また、介護者が仕事を続けていくことが困難なケースにおいても「認知症」が最も高い。

図表.（施設等の検討状況別）現在抱えている傷病

（介護者の就労継続の可否別）現在抱えている傷病



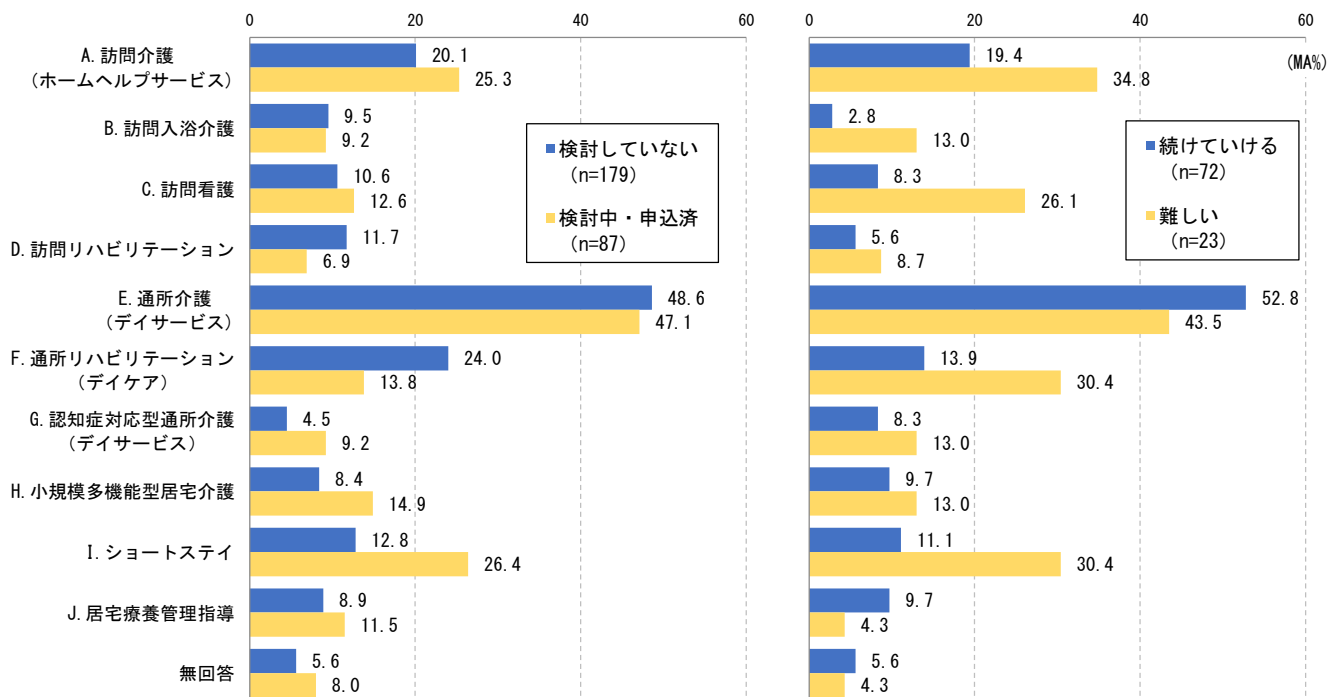
（４）介護保険サービスの利用状況

A票

※サービスを利用している人のみ回答

施設等への入所・入居の検討状況や介護者の就労継続の可否にかかわらず、「通所介護（デイサービス）」が最も高くなっている。

図表.（施設等の検討状況別）介護保険サービスの利用状況（介護者の就労継続の可否別）介護保険サービスの利用状況

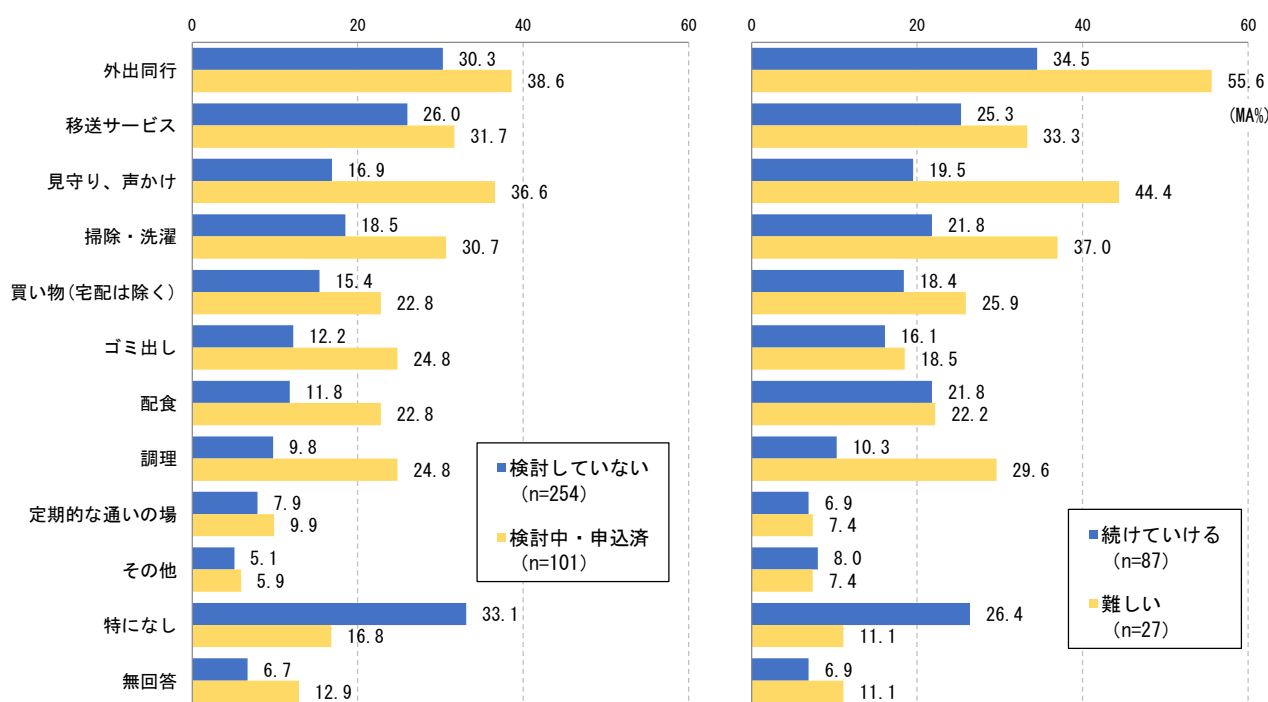


（５）在宅生活の継続に必要な支援・サービス

A票

施設等への入所・入居を検討中もしくは申し込み済の高齢者や介護者が仕事を続けていくことが困難なケースでは、ともに「外出同行」が最も高く、次いで「見守り、声かけ」となっている。

図表.（施設等の検討状況別）在宅生活に必要な支援・サービス（介護者の就労継続の可否別）在宅生活に必要な支援・サービス

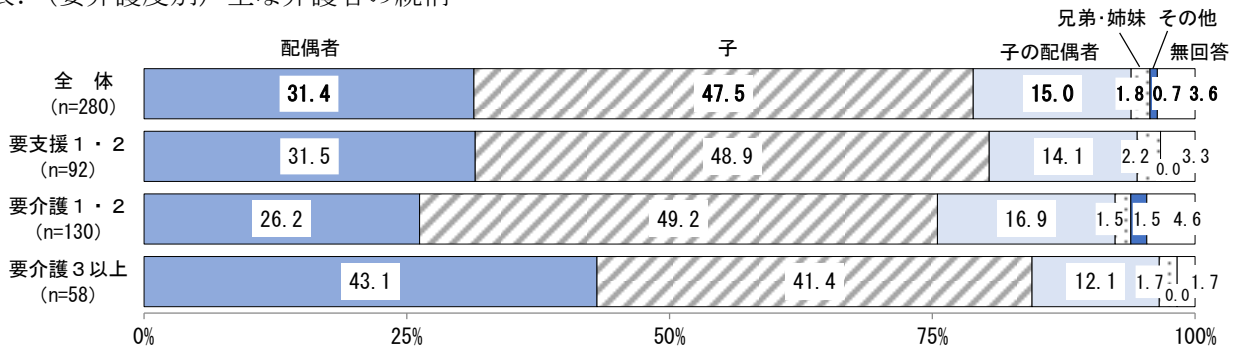


（6）主な介護者の続柄 **A票**

※介護を受けている人のみ回答

主な介護者としては、要介護3以上では「配偶者」が4割台(43.1%)と、要支援1・2、要介護1・2に比べて高い割合となっている。

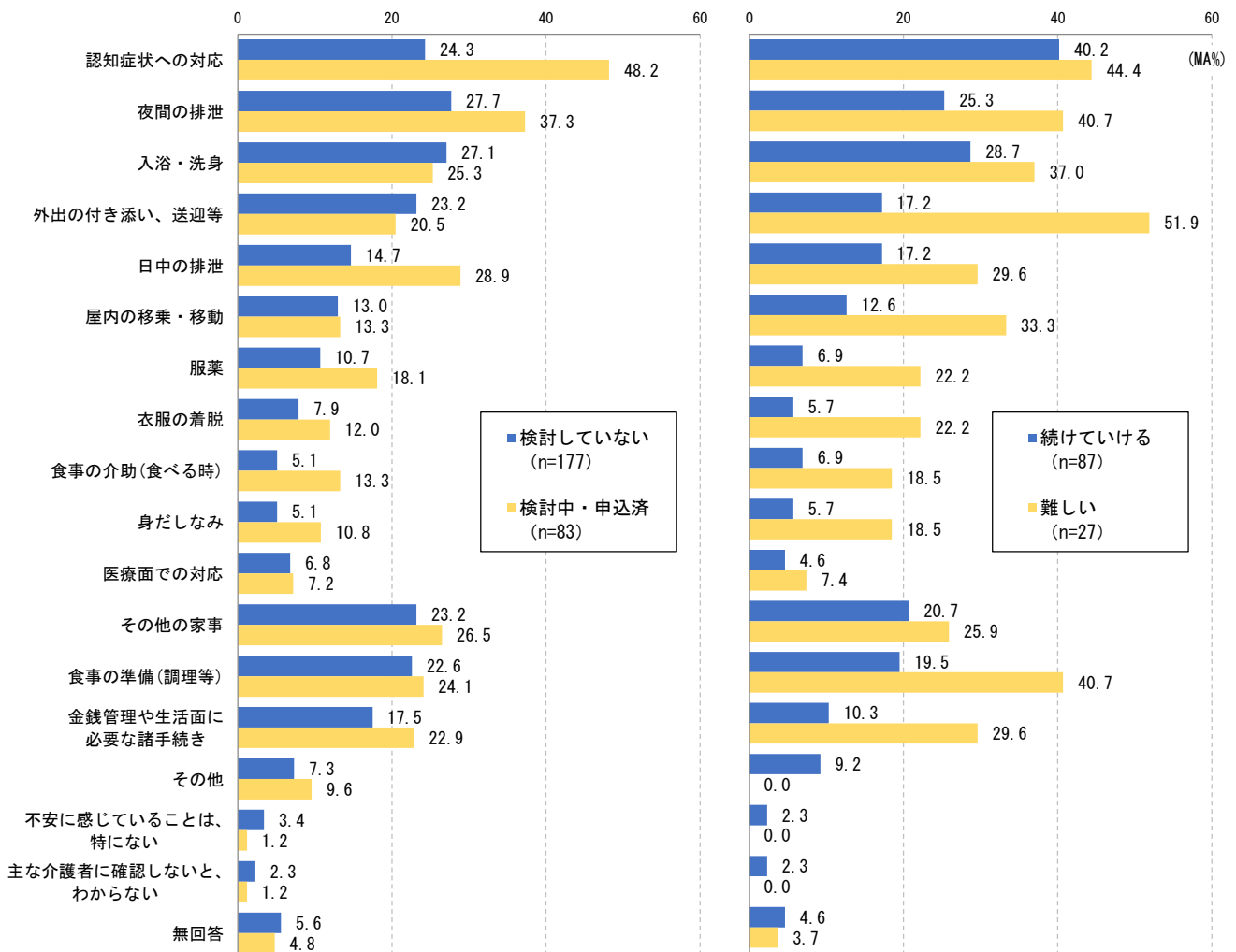
図表.（要介護度別）主な介護者の続柄



（7）主な介護者が不安に感じる介護内容 **B票：主な介護者が記入**

介護者が不安に感じる介護内容としては、施設等への入所・入居を検討中もしくは申し込み済みのケースで「認知症状への対応」が最も高く、次いで「夜間の排泄」となっている。また、介護者が仕事を続けていくことが困難なケースにおいては、「外出の付き添い、送迎等」が最も高く、次いで「認知症状への対応」、「夜間の排泄」となっている。

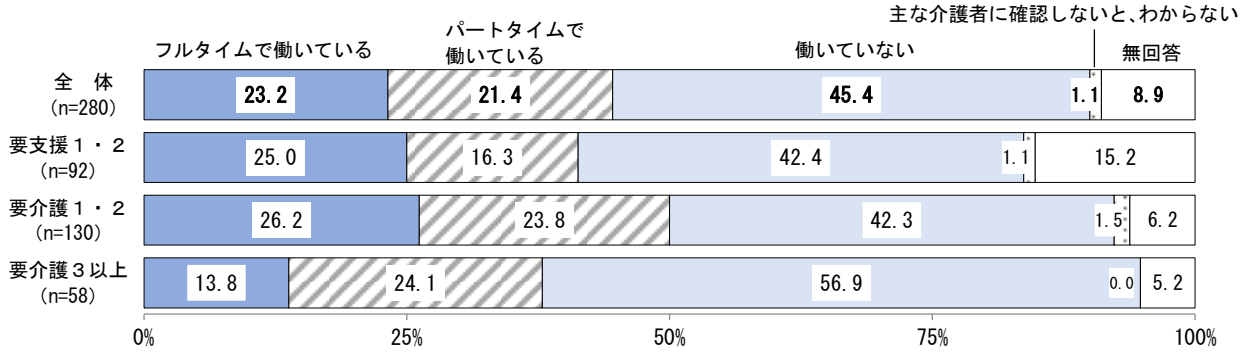
図表.（施設等の検討状況別）介護者が不安に感じる内容（介護者の就労継続の可否別）介護者が不安に感じる内容



（８）主な介護者の勤務形態 **B票**

主な介護者がフルタイムで働いている割合は要支援1・2及び要介護1・2では2割台みられるのに対し、要介護3以上では1割台(13.8%)と低い。

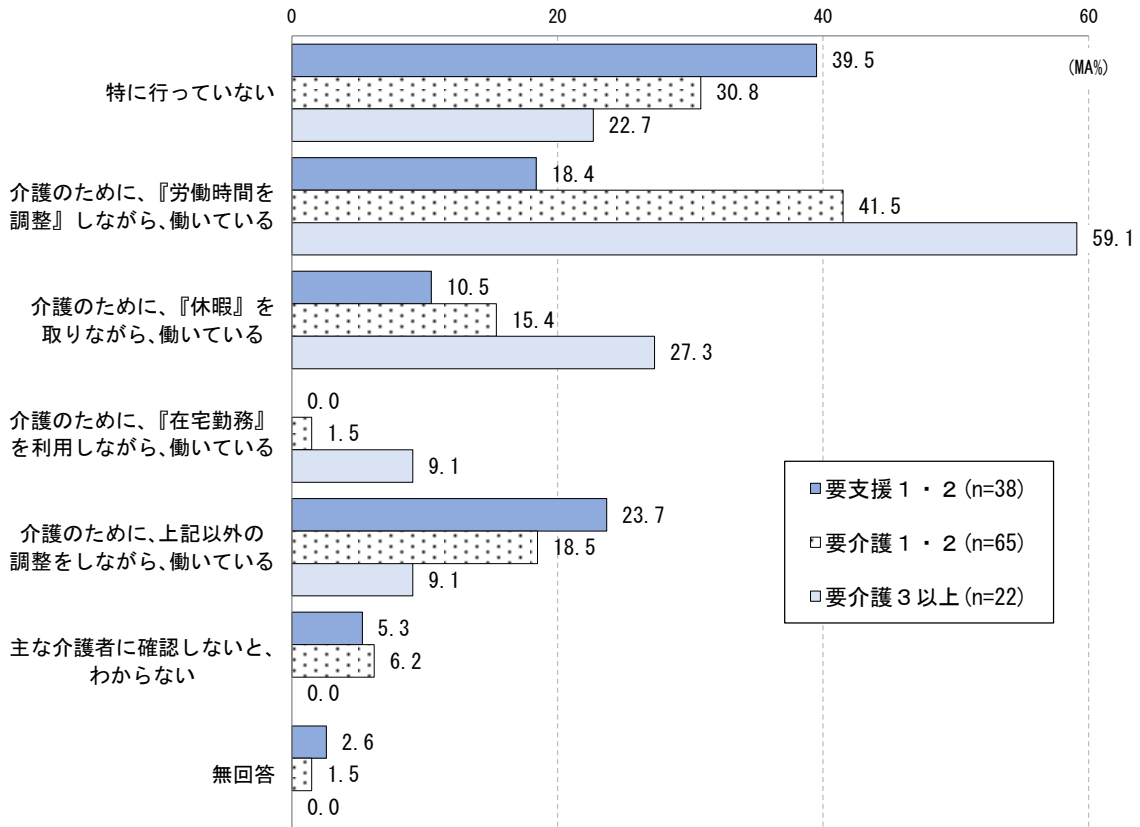
図表.（要介護度別）主な介護者の勤務形態



（９）介護による働き方の調整 **B票**

現在働いている介護者のうち、「介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」という人が、要介護の人(要介護1・2及び要介護3以上)で高くなっている。

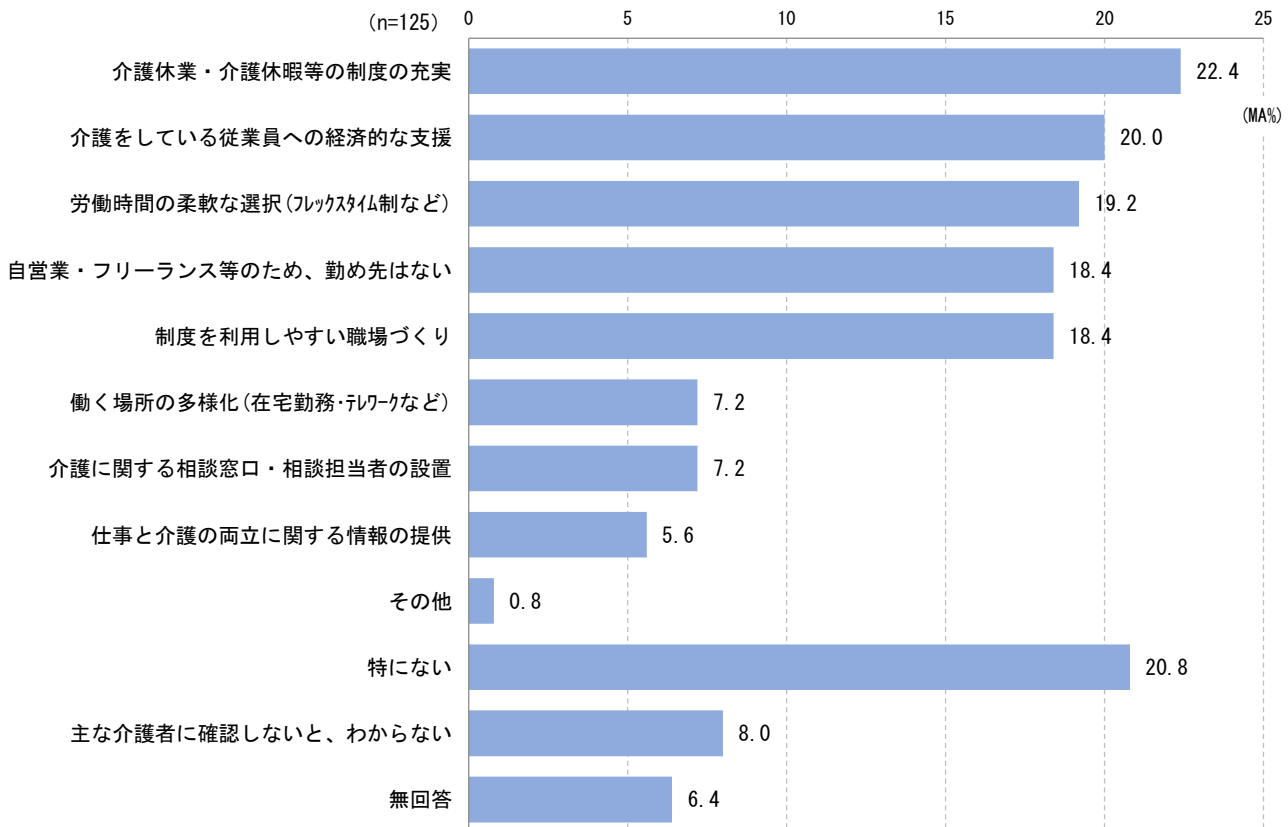
図表.（要介護度別）介護による働き方の調整



(10) 仕事と介護の両立に効果がある支援 B票

仕事と介護の両立に効果があると思う支援としては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が22.4%と最も高くなっている。

図表. 仕事と介護の両立に効果がある支援



(11) 仕事と介護の両立の可否 B票

働きながら介護を続けていくことは難しいと考えている介護者は、2割台(21.6%)みられる。

